

信行寺 門信徒会発より

創刊号

平成14年
7月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL078-732-5209

信行寺門信徒会



門信徒会
発会式の模様

発会式に寄せて

住職 米田睦雄

門信徒の皆様におかれましては、阿弥陀如来さまの大いなるお慈悲をうけられて、お念仏相続のこととお慶びも申しあげます。

おかげさまで、みなさまのご協賛をいただき「信行寺門信徒会」の発会をみることができました。

19世紀末から始まった科学技術の急激な発達は、20世紀にいたって大きな発達を見ました。それをわたしたちは、「あたりまえのこと」として安易に受け取ってきたような気がします。

「便利だから、楽だから」とかの理由だけで。

そのような中でわたしたちは悲しいことです。「物質中心主義や合理主義」で、ものごとを考えるようになり、「心の世界」を軽視する風潮ができてしまったようです。

21世紀をむかえた今、「ものの豊かさ」だけではなく、わたしたちの先祖が持っていた「心の豊かさ」を再認識する大切さを、自分もシツカリと受けとめ、ひとびとにも伝えてゆきたいと考えています。

20年前には、親が子供を虐待して新聞やTVの話題にのぼることは無かったように思います。お念仏を申し手を合わす心が欠けているようです。

門信徒会発会に至った経緯について

副会長 長井輝子

皆様、本日は門信徒会の発会にご出席頂きまして誠にありがとうございます。

それでは、この会がどの様なわけで、発会する運びになりましたかと言う事を簡単に説明させて頂きます。もともと信行寺には、凡そ50年程前から仏教婦人会がございました。その後、大分おくれますが、23年程前に仏教壮年会が、5人の有志の方々により発足致しました。それと申しますのは、宗祖親鸞聖人のみ教えを、もつと詳しく学んでみたいと言う事が、原点だったと聞いております。

そこで、御住職にお願いして、月1回の勉強会を開かれたのが今日の壮年会に至ったとの事でございます。以後平成7年のあの大震災までは、各々婦人会壮年会として、毎月の法話会に出席又行事に参加して参りましたが、寺の全焼と共に残念乍ら休会の止むなきに至っております。この度お寺がこの様に立派に復興しましたのを機会に、私達はこのお寺の建物にふさわしい活動をしてゆこうと考えました。つまり婦人会壮年会の各々の組織を一つにして、より多くの皆様方に御参加御協力を頂き度、信行寺門徒会を発会する事になりました次第です。そのことが又、親鸞聖人のみ教えそしてお念仏を頂く事になり、次の世代の人々にまで伝わって行く事になる、誠によい場になると存じます。お互いに名ばかりの真宗門徒で終わる事なく、立派に復興した本堂に恥ずかしくない様な門徒になりたいもの

でございます。

言葉にいたしますと以上のような様になりますが、要は気軽に一人お一人、御家族のどなた様でも、お寺にお立寄り頂ける様願っております。以上、発会の経緯を申し上げましたので、どうぞ御賛同御協力をよろしくお願い致します。

信行寺門信徒会発会式開催の巻!



好晴に恵まれた、去る六月二十二日午後二時から信行寺二階礼拝堂に於いて、七十余名の参加者を迎え、信行寺門信徒会発会式が開催されました。

定刻二時に司会の川口昭次氏の開式の言葉、つづいてご住職導師のもと、全員で十二礼をお勤めし、門信徒会発会に至った経緯について門徒を代表して長井輝子氏より報告、議長に月田幹雄氏を選出し、議事に入り、規約案、役員案、についてはご住職、事業計画案については松井副会長、予算案については辻会計から、それぞれ提案説明があり、満場一致で承認されました。会長に就任された谷川俊雄新会長のあいさつをもって、めでたく門信徒会が誕生しました。一刻休憩の後、ご住職の法話を拝聴し、参加者全員が浄土真宗の門信徒であるとの自覚をつよめ、盛会のうちに定刻午後四時に無事閉会となりました。

会長を拝命して

信行寺門信徒会長

谷川俊雄

信行寺門信徒会結成誠におめでとございます。

四月中頃信行寺門信徒会を結成しますので入会してくれませんか。世話人さんに声をかけて頂き、入会の心積もりで会費も納め、世話人さん方で準備を進めて下さっている事を喜ばしく思っています。或る日突然ご住職より「谷川さん事務的な仕事は役員さん方でお世話して頂けるから会長を受けてくれませんか」と相談を頂き、私にはそんな気持ちは全くなく年齢と共に体力も気力も衰えている事も身にかけておられますので一旦はお断りしたのですが「気楽な気持ちで受けて下され」と進められお断りの理由もなくお受けする事になりました。私はご住職様には永年ご教化を頂いています。

信行寺さまには先住職様がなくなられ、お子様も小さく坊守様にはお子様の養育に手の掛る時でした。そんな時ご住職は本山の勸学寮へ勤務して居られました。勸学寮とは真宗学の要を守り、研究をしてゆく要職で寮頭さんには古参の勸学さんが就かれ、ご住職も末は勸学さんと言われておりました。その職を辞職され「私の僧侶になった目的の初一念に歸る」と言われました。この時は大きな感動をおぼえこの方の為ならどんな協力もしよう。又、生涯ご教化を頂こうと決心した事でした。そんなご住職が私の事をよく知った上での進めでもあり、再度「気楽な気持ち」と言われた事でもあり、これが私の会長をお受けした真意でございます。

どうか役員の皆様、力をお貸し下さい。会員の皆様どうぞ御協力下さい。そして初期の目的通り立派な門信徒会に育てて頂くようではありませんか。
南無阿弥陀仏

門信徒会の規約について

（門信徒会規約（抜粋） 平成14・6・22実施）

（目的） 親鸞聖人の流れをくむ浄土真宗の門徒であるという意識をもつとともに、お念仏のみ教えを次世代に伝えるための活動を一層すすめることを目的としている。

（事業） ①寺報の発行 ②住職の要請への協力

③信行寺行事への積極的参加

④その他、必要と認める事業を行う

（役員） 会長（一名） 副会長（若干名） 委員（若干名）

任期は二年とし再選を妨げない

（顧問（若干名）

（会議） 総会（年一回の総会と必要に応じて臨時総会を開く）

（経費） 年会費二〇〇円を年度当初に納入する。

寄付金、その他の収入もこれにあてて。

（年度） 毎年四月一日より翌年三月三十一日まで

（規約の変更） 委員会の議決に基づき総会の承認を得るものとする

信行寺門信徒会

役員紹介

・会長 谷川俊雄

・副会長 福岡繁治、長井輝子、月田幹雄、松井 孝

・顧問 長井瑛治、藤本哲郎、逢坂光豊、新田泰三、石田好光

・総務委員 萬 董子、泉井玲子、田中尚子、武村スツエ、丸尾貞子、新田光美、赤坂敏子、青木一江、小林元子、横田伊津子、浜尾千代子、森石恭子、渡辺由子

・企画委員 川口昭次、赤坂亥才男、金野和雄

・会計委員 辻 英子、石田智子

・監査委員 藤本園子、谷藤清子



毎月の行事 信行寺

毎月第一日曜日 午後二時より

護法会法座 「蓮如上人御一代記聞書」

毎月第二日曜日 午後七時より

仏教講座 「教行信証」

住職

毎月第三土曜日 午前十時より

仏教讃歌のつどい コーラス みやび会

毎月第三土曜日 午後二時より

定例開法のつどい 法話 住職

法義示談（信仰相談）

住職

青少年心の相談室

（仏法の質問に応じます）

副住職

月一回日曜日 午後四時～六時まで

仏教青年会

副住職

質問コーナー

住職

問 お盆のことについてお聞かせください。

答 一般的には、亡くなった人などの追善供養をし、苦の世界から救うための行事として考えられています。しかし、浄土真宗の門徒は次のように受けとめてゆきましょう。

お釈迦さまのお弟子の目連尊者が、餓鬼の世界に落ちて苦しんでいる母親を救うために、お釈迦さまの教えをうけ、おおぜいの僧を供養し、その功德によって、母親を救うことができたのがお盆のはじまりと伝えられています。

わが子を育てるためには、餓鬼の世界に落ちることも辞さない母親の姿がここにあります。このことから、お盆は、自分を育ててくれた親の恩を知る日です。

同時に、生々世々の父母兄弟の恩をも追憶し、ひたすら仏の御恩の深重なることを思い、厚く仏法僧の三宝を供養する日になります。

また、生きている者も、亡くなられた者も一緒になって、同じ家族、同じ一族という思いの中で、同じ時間をすごす日にもなります。家族がバラバラになっている現代社会ではこれが特に大切です。



法味

遠藤政子

子供の時から、手を合わせお念仏申すことは、教えられて育ちました。旅先でも、お寺の屋根が見えると、自然にお念仏が出ました。

知り合いの人の紹介で、信行寺様に二縁を結ぶことができたのは昭和59年でした。早いもので約20年になります。

どこよりも熱心に、御院主様が広島弁で御法話をしてくださり、やさしい坊守様、善い法友たちにお逢いできる幸せに誇られて、法座には必ず出席させていただく決心をいたしております。

戦前の「産めよ増やせよ」の時代から、私は助産婦をしていましたので、よく徹夜もしたものです。

昭和30年に、神戸にきました。産婦人科で助産婦として、9年余り働かせていただきました。約束はお産の方だけでよかったです。毎日中絶手術があり、驚いたわけです。これを長く続けることは、人助けであると共に、罪造りを重ねることになると思います、心苦しくなり、退職いたしました。

64年間一緒に生活した主人は、私がお寺に出掛けるとき、一度も「やめておけ」と申した事はありません。本心にうれしたことでした。

おかげさまで、毎日感謝の生活です。



念仏奉仕団に参加して

前婦人会長 辻 英子

念仏奉仕団への参加は、仏教婦人行事の一環として昭和五十六年より始まり、壮年会の御協力も得まして今年で第十九回目、迎えようとしています。

思い起こせば第一回目は、緊張と不安のうちに行かせて頂きました。併し、御影堂のみことに荘厳された御仏前に座らせて頂きました時、心は澄み、安らぎを与えていただいた事を今もはつきりと覚えております。

毎回全国各地より四百名余りのお同行の方々が上山されますが、私共が「奉仕」させて頂くのではなく、ご本山の有難さを授与されていると申しても過言ではないと思えます。

また、旅館での楽しく和やかなひと時も、皆様の笑顔の中に、ふだんとは違った得難い「場」になっていると存じます。

鐘の音に始まるお晨朝の素晴らしさも、ぜひご体験頂きたいものでございます。

今年からは門信徒会の行事として、十月の四日、五日の両日に予定されております。

信行寺様との御縁、お念仏の深い御恩、そして、み仏様との強い結びつきを喜んで頂けますよう、心の依りどころとして頂けますよう、お一人でも多くの方々の御参加を心よりお念じ申し上げております。

今まで参加出来ませんでしたこと、又これからも参加させていただける喜びに感謝致しまして。

台掌

夏期法座に参加して

野村照子

カンカン照りつける会場へ来てみると、なつかしいお顔がそこそこに見えて、ホッと致します。涼しい会場で御住職のこやかなお顔、そしてゆっくりと法話を聞かせて下さいます。静かな時がゆっくりと過ぎていきます。お昼は別室で親しい方々と語りあい乍ら、お食事を頂き、又午後の法座にもどります。何も考えず、法話に引き込まれて、思わず御念仏を申す様になりました。

主人を見送って十四年やつと心を落ちて静かに御念仏を申す事が出来るようになりました。突然の発病、手術後大腸癌、余命は一年とのお話に只呆然と致しました。そばにいて何故気付かなかつたのかと後悔ばかり。一年後又御寺へお参りして法話を聞かせて頂くようになりました。中々無念の思いは晴れませんが、林先輩が、何度でもお話を聞かせて頂く、それがいいのですよ。難しい事は解らなくても、何度も聞く内に合点がいく様になりますと、励まされ、参らせて頂く内に難く何度でも承りたいと思う様になりました。ご住職、奥様の御導きと感謝致しております。今年も法座申し込みの季節になりました。元気で出席させて頂く様に、健康に気をつけ様と思っております。





その①

名古屋別院報恩講参拝と

高田本山岩修寺参詣の旅へ

二月十五日板宿を出発、名神高速道を経て「本願寺名古屋別院」へ到着。お斎（とき）をいただき、報恩講法要にお詣りした。この報恩講の法話には、信行寺住職が勤められた。私達参拝者は、ご住職の広島なまりの法話に親しみを感じながら、ご聴聞する。この地にて、住職のご法話に接し、住職の法義の偉大さに感動のひとつときだった。夕食後、初夜法要にも参拝し、ホテルで一泊した。

明十六日には、三重県津市にある高田派本山「専修寺」参詣する。名古屋から津市へ向かう車中で住職から高田派設立の由来について、くわしく解説していただいたとおり、巨大な山門をくぐり、本堂に入りみんまで合掌する。ご案内人の詳しく、わかりやすい説明を受け、宝物殿まで拝観させてもらった。高田派について知ることができ有意義な参詣だったと感じる。この「専修寺」の参詣を終え、一路神戸に帰る。今回も意義深い参拝旅行となった。



その②

蓮如上人の泊跡参拝旅行へ

四月二十二日、快晴の板宿から、一路北陸路へ。まず、石川県松任市（まつとうし）にある「聖興寺」へ参拝した。ここには俳人、加賀の千代尼の墓や、遺品が宝物殿にぎあう。坊守さんの丁寧な解説で千代尼のすべてに感動した。これから、富山の砺波市（となみし）のチューリップ畑へ、色とりどりの花々にうっとりみとれ、今夜の泊まり地である庄川温泉へ到着した。

明二十三日は、金沢市二俣（ふたまた）の「本泉寺」へ。このお寺は、蓮如上人の叔父如乗上人が創建されたもの。蓮如上人は北陸路を下るときには、この寺に起居を共にしたといわれ、蓮如上人の本願寺第十八代継承に、この如乗上人が尽力されたといわれる。境内には蓮如上人、ご自作の庭園や遺品などが多数あり、前住職の巧みな話法で、昔の世界にタイムスリップしたようになり改めて上人のご遺徳を偲んだ。このあと、金沢市東町にある「専光寺」へお詣りした。この寺は北陸の準別院といわれる立派なもので、百三十六か寺を触下に有しているという。前田家ともゆかり深い真宗大谷派の名刹である。

最後に金沢の「別院」にもお詣りして「金箔工房」に立ち寄って無事帰神したが、今までにない蓮如上人と深いかかわりのある感動深い参拝旅行だった。

一月田 幹雄

募集、お知らせ 目次

8月18日 (日) 11時~15時

会場・シーパル須磨
第二十回
夏期特別法座
会費 四千円

9月14日・15日 (土) (日) 14時 14時

彼岸法要

十五日の法話 注 職
十四日の法話 高田慈昭先生

10月4日~5日 (金) (土) (-泊)

第十九回
本山念仏奉仕団
会費二万三千円

寺報の「名前」募集

「信行寺門信徒会だより」の名前を

募集します。

みなさんから寄せられた「名前」の中から選定させていただきます。次回の存報のら使用させていただきます。

「名前」ができませんたら 信行寺までご連絡を。

寄付

◎「信行寺」の発会に際し次の方々から遊分の御座ることをいただきました。返上を借ります。お礼申し上げます。
神ノ祭典様 柳淑様 釜江様 香川様 高川様 小本曾様 藤岡様 橋本様 前田様 (順不同)

「編集後記」

みなさんのご協力を得て「信行会だより」を発行することができました。

内容と不十分で、満足のかない点もあると思いますが、さらに内容の充実を図りたい所存です。「信行会だより」に対するご意見は、ご投稿をお待ちしています。

八 赤坂 V